



大野市教育委員会たより

令和元年7月23日発行 第13号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月18日(木) 午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場所：富田小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：富田小学校保護者(出席者10人)	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- 子どもは毎日学校が楽しいと言っている。再編した後、新しい学校が嫌だと言われない教育環境にしてほしい。今の環境は自分たちの時よりも、子どもと先生・大人との距離感が近いと思う。現状の環境を出来る限り変えないようにしてほしい。
 - ⇒ ■大人との距離感が近いのは有難い。信頼関係があるからだと思う。
 - ⇒ ○集団登校では、大人が結構一緒に歩いている。
- 富田小や尚徳中では、子どもの顔を見たら保護者の顔が浮かび、先生も学校に行くと子どもの状況を教えてくれる。大きい学校でもこのような環境が保たれるのか心配である。再編すると校区が広がり、保護者の顔が分からないため、保護者から子どもの情報を聞けない心配がある。中学校では部活を選べないので哀想である。市全体で部活が選べるような形を考えて欲しい。他の学校の子どもと交わる機会にもなる。
 - ⇒ ■中学校の部活は全体的に減ってきている。開成中や陽明中でも減っている。いずれは市全体で部活を行うような流れになるかもしれない。中体連では、合同チームによる出場について議論を進めているが、現在は、民間のクラブなどに助けてもらっている状況である。
 - ⇒ ○競技にもよるが、部活も民間のクラブもうまく行っていないと思う。競技がうまい子どもだけが民間のクラブに行くような現状である。学校と部活動の問題は別と考える。以前、文部科学省で部活動について教えてもらい、部活動の問題は学校と切り離して、地域や教育委員会で考えなければいけないと聞いた。
 - ⇒ ○部活が出来ないから再編するのではなく、勉強面で支障が出るから再編する方向で考え、部活動は部活動で考えないといけない。尚徳中では吹奏楽部もない。
 - ⇒ ■みんスポクラブでは、今年から音楽(吹奏楽)も立ち上げて、有終西小で活動を行っている。中体連への中学校合同チームの参加については、県教育委員会も中体連に働きかけをしている。県内の自治体によっては、中学校の部活動の人数に支障がないところもあり、県全体での調整が難しい面もある。
- 学校関係経費が抑えられるから、学校を再編するのか。
 - ⇒ ■学校の経費を抑えるために再編をするのではない。学校数が減れば経費が少し抑えられるのは事実である。教育委員会では再編が進んでも、現在の市費全体における教育費の割合を確保しながら、再編後の学校に対して重点的に予算を配分し、きめ細かな修繕を行ったり、今年度コンピュータに替えてタブレットを各小中学校に1クラス分導入するが2クラス分導入したりするなど、教育環境を充実していきたいと考えている。
 - ⇒ ○富田小は良い環境である。一番心配なのは、住んでいる地域に学校がなくなることによって過疎化することである。自分の地区には移住されてきた人がいるが、近くに学校があるのも理由かと思っている。学校がなくなったら選んでもらえなかったかもしれない。中部縦貫自動車道が開通すれば、中京地区から移住してくる人もいと期待する。もしかしたら、子どもが増えるかもしれない。
 - ⇒ ○市では人口を増やす努力をしているので、小学校はもう少しこのままであって欲しい。中学校の現状は可哀想である。運動会などが寂しい。
 - ⇒ ■再編における小学校と中学校の考え方は少し変えないといけない。移住される方は、大野の自然を求めて来られると思う。上庄地区でも農業を行いたいということで移住されたが、そこには小学校もあったから安心したとのことであった。

- ◎子どもが学校で「富田の宝」を勉強している。地元のことを勉強できるのは、地域に学校があるからだと思う。子どもも「富田って良い所やな」と言っているので、富田小はいいなと感じている。
 - ⇒ ■富田小の3年生は15人であるが、尚徳中も含めてクラスの人数について心配なことはないか。
 - ⇒ ◎1年生の時は13人と少なく驚いたが、先生の目が行き届き、他の学年とも仲が良い。学年を超えて遊べるのが良い。中学校はもう少し大きい規模の広い世界で過ごさせてやりたい。
- ◎中学校では少し競争が必要である。ずっと1学年1クラスで寂しい。
 - ⇒ ◎競争心がなくても勉強は出来ると思っている。
 - ⇒ ■競争ではなく、社会性が学べると思う。自分の立ち位置が分かる。
 - ⇒ ◎中学校での部活の選択肢があまりにも少なく可哀想である。
 - ⇒ ◎尚徳中になく部活は他の中学校の部活に行けるような方法があればいいと思う。
 - ⇒ ■練習は認められるが、大会に出場できるかが現在課題となっている。
- ◎以前の学校説明会で中学生が「部員が少ない人数だから試合に出られた。多かったら出られなかった。」と発言していたので、小さい学校では、そういう長所もあると理解した。
 - ⇒ ■最近、卓球やバドミントンなど団体戦以外に個人戦がある競技に人気がある。
- ◎小学校は基礎的な部分であり地域にあれば良いが、中学校は人数が少ないので、部活や競争の点から再編した方が良い。小規模の小学校は、地域の理解を得ながら、地域ごとに少しずつ再編した方が良い。
- ◎何年も先を見据えて話をしていけないのは分かっているが、子どもが減っていくことを前提に話をしていくのかどうかと思う。自分たちの世代が高校を卒業し、地元で一生を送るということを夢見ることが出来れば、このような状況にはならなかった。ショッピングセンターなどの民間施設は授乳室などのサービスを早い時期からしていたが、文化会館などの公共施設にはそのような機能がない。放課後子ども教室も夏季休業中は、やっていないが、児童館はやっている。(子どもを育てる環境が整っていない。)
 - ⇒ ■児童館が責任を持って預かる学年は、小学校1年生から3年生となっている。児童が多すぎて目が行き届かない状況となっている。
 - ⇒ ◎夏休み中、子どもを見る者が家にいないため悩んだ。
 - ⇒ ◎富田小の放課後子ども教室では、誰もが登録しているため人数が多くなっている。家で祖父母に見てもらうのも大事なことと思う。
 - ⇒ ■子どもにとって、児童館に1日居るのはつらいことである。午前中は家で勉強し、午後は外に遊びに行くのが子どもにとって幸せなことと思っている。社会全体で受け入れを考えていくことが必要である。
 - ⇒ ◎今の子どもたちが、一生地元で過ごしてくれる社会を考えてくれると良い。
- ◎中学校へ行って友だちが増えないのが不安と自分の子どもから聞いた。自分も小中高と定期的に世界が広がり、その中で自分の居場所を作った経験があり、子どもがその経験を出来ないのが残念だ。富田小が下庄小や有終東小の分校となり、小学校の間から交流ができ、中学校と一緒に学べるような環境が良いと思っている。
- ◎大野で育っていないため、大野に対する執着心はあまりない。大きい学校で育ち、その場その場でいろいろな出会いがあり、揉まれてきた。子どもに対して、大野で暮らしてほしいという気持ちはない。大野で育ったことを大事にして、どこでもやっていける子どもに育てほしい。再編では地元のいろいろな小さいことが問題となり、全く進まなくなっている。それよりも、これから先は世界と自由につながる社会になる。大野で教育を受けたことで、どこに行っても通用し、幸せで自分らしく生きる子どもに育てほしい。
 - ⇒ ■教育委員会が子どもに「自信」をつけさせたいと思っているのは、どこに行っても通用する子どもを育てたいという意味もある。
- ◎中学校は競争できるよう、2校ぐらいあった方が良い。
- ◎まだ子どもがいなくて、これから子育てをする人たちが学校再編の議論に加わっていないのがどうかと思う。
 - ⇒ ■今後、保育所やこども園の保護者、地区の方々を対象に意見交換を行うこととしている。全員が納得する再編は難しいかもしれないが、皆さんの考えをまとめながら再編計画の見直しを行っていききたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

